

合同動的夫婦画を通じてみる中年後期の夫婦の特徴
— 25年以上関係を継続しているカップルを中心に —

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
古田 絵理

中年期の夫婦は、未解決のままにしてきた問題の顕在化や夫婦関係の未調整により離婚に至る場合がある。離婚という形をとっていない夫婦も、コミュニケーションや共同作業をほとんどおこなわず、問題を抱えている場合がある。このような社会の状況の中で、中年期になった夫婦が良好な関係を継続するためにはどうすれば良いかという点に着目した。そして、共同作業やコミュニケーションをおこなうことのできる状態で、精神的な健康を保ちながら、長期間関係を維持している中年後期の夫婦の特徴を明らかにしようと考えた。

本研究では、そのための手段として、CKFD の手続きを参考に、夫婦の相互作用やこれまでの生活などについて読み取ることができる夫婦の合同描画法（以下、合同動的夫婦画とする）をおこなった。離婚や再婚の経験がなく精神的に健康で、子育てを終了した中年後期（50～64歳）の夫婦7組を対象とした合同動的夫婦画に表れる、長期間関係を継続してきた精神的に健康な夫婦の特徴を検討することを目的とした。また、合同動的夫婦画の持つ意義についても探究した。

調査では、A3の画用紙に夫婦合同で描画をした。その後、半構造化面接をおこない、描画の振り返りをした。最後に質問紙への記入を求めた。描画、描画プロセス、描画後の語り、質問紙調査のデータを分けて質的に分析し、各夫婦の特徴と7組の夫婦に共通する特徴を複数の観点から検討した。

その結果、これらを合わせることで、多面的に夫婦の関係をよみとることができることが示唆された。そして、7組の夫婦に共通する特徴を5点見出した。共通する特徴は、①夫婦は中年期特有の様々な変化が生じており、その変化に適応することができる点、②描画中に笑い合い、描画が不得手なことを指摘し合って冗談を言っていた点、③性別分業や最初に決めた役割分担などに拘らず、育児をはじめ、様々なものに夫婦共同でとりくむ姿勢がみられた点、④お互いパートナーに配慮し、サポートし合う点、⑤描画において、お互いの意見や感想を隠すことなく表現できており、自分たちの関係を全体的に肯定的で前向きにとらえている点であった。

また、先行研究の臨床家族を対象としたCFDおよびCKFDの臨床的意義と重なる部分があるため、合同動的夫婦画を精神的に健康な夫婦だけではなく、臨床群の夫婦の関係の測定や治療に用いた場合も類似した効果が得られる可能性があるのではないかと考える。これまで、夫婦の関係に着目し合同で描画をおこなった研究はない。今後は、臨床群の夫婦を対象とし、本研究で得られた合同動的夫婦画を使った夫婦臨床への示唆について検討する必要がある。